



薬の伝言板

～痛みをやわらげる「医療用麻薬」について～

No280 2021年3月
丸子中央病院 薬局

「強い痛みには医療用麻薬を使用することがある」と耳にしたことはありますか？
「麻薬＝やめられなくなってしまう・使ってはいけないもの」というイメージを持たれている方もいるかもしれませんね。

しかし、**医療用麻薬は正しく使用すれば、依存することはありません。使ってはいけないことも決してありません。痛みを抑えてくれる大切なお薬になります。**

今回は「痛みの種類・伝え方」と「医療用麻薬についての疑問」について、簡潔にまとめましたので、紹介します。



●痛みの種類について

痛みは主に3種類に分類されます。痛み止めのお薬は様々ありますが、そのお薬によって取れる痛みが違ってきます。下の表のような痛みの違いは、痛み止めのお薬を選ぶための大事な違いになります。

痛みの分類	痛みの特徴	痛みの表現
内臓痛	・ 痛みの場所があいまいで鈍い痛み	・ ズーンと重い ・ 押されるような鈍い痛み
体性痛	・ 痛みの場所がはっきりした明確な痛み ・ 動かすと痛みが増す	・ ズキズキ ・ うずくような
神経障害性疼痛	・ 神経のしびれ感を伴う痛み	・ ビリビリ電気が走るような ・ しびれる

●痛みの伝え方のポイント6つ ～痛みは我慢しないで！～

痛みを我慢していると、**体を動かすことが億劫になったり、食事が美味しいと感じられなくなったり、眠っていても痛みのせいで熟睡できなくなることがあります。**

また我慢の限界にまで達した痛みをコントロールすることは困難です。痛みは出始めの軽い時期から適切に治療することによって、コントロールできます。自身の痛みをうまく伝えるために伝え方のポイントを6つ紹介します。



- ① いつから痛むのか
- ② どこが痛むのか
- ③ どのように痛むのか（ズキズキ、シクシク、重い、ピリピリなど）
- ④ 痛みが原因でどんな不具合が生じているか（眠れない、食欲がないなど）
- ⑤ 何をしたら痛みが強くなるのか、または楽になるのか
（座ると楽、歩くと痛むなど）
- ⑥ 現在内服中の鎮痛薬の効き具合はどうか
（薬が効くまでの時間や効果の持続時間について）

